

第5回射水市総合計画審議会 会議録

○日 時 令和4年10月28日（金） 午後7時～8時30分

○場 所 クロスベイ新湊2階 i C Nホール

○出席者

（委員）

明石あおい、朝倉あゆみ、飯山進、岩口久梨果、上田秀永、牛塚松男、大坪清治、大西宏治、荻浦明希子（リモート）、尾山春枝、門田晋、木田和典（リモート）、古池清一、笹川征一、鈴木真由美、高市洋介（リモート）、塚本清、辻ゆかり、樋上正之、牧田和樹、松本吉晴、宮城克文、宮田妙子、宮田雅人

※欠席委員

加治幸大、川原辰弥、津田奈由子、釣谷隆行、二川由利子、松本三千人、森由佳子、亘建邦

（当局）

磯部副市長、金谷教育長、島多市民病院長（リモート）、桜川議会事務局次長、小塚企画管理部長、北財務管理部長、長谷川市民生活部長、小見福祉保健部長、宮本産業経済部長、吉田都市整備部長、夏野上下水道部長、渡邊会計管理者、久々江教育委員会事務局長、吉岡監査委員事務局長、竹内消防長、中野市民病院事務局長（リモート）、杉本企画管理部次長、菅原政策推進課長、坂井財政課長

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

（1）第3次射水市総合計画（素案）に対する意見等について

菅原政策推進課長	※資料1、2に基づき説明
委員A	「施策の成果」について、どのページを見ても目立たない。文字を大きくする、囲うなど、目立たせたほうがよい。
政策推進課長	製本にあたり、見やすさを含めて全体のデザイン・レイアウトについて調整していきたい。
委員B	P9の関係人口における記述について、「86,000人の達成につなげます」という意気込みは分かるが、「86,000人を目指します」ぐらいの表現がよいのではないかと。 P32の現状と課題の中に、部活動に関する主旨や内容を追記しているが、これは中学校の部活動だけでなく、高校の部活動にどのようにつなげていくのか、ということも意識してもらいたい。 P61の3-3-1（2）に「防災士の育成と地域の連携」とあるが、「地域との連携」のほうがわかりやすいのではないかと。また、（3）に「地区防災計画の策定支援と推進」とあるが、地区防災計画の策定は地域振興会で行うものであり、行政は策定を支援する立場である。推進という言葉は何を推進するのか分からないので、いらぬのではないかと。さらに、3-3-2に係る現状と課題に「若手消防団員の加入促進」とあるが、人口減少社会においては消防団員の定数の確保も大事だが、「適正配置」が課題となるのではないかと。実施計画を推進する際には、適正配

	置を課題として捉えていただきたい。
政策推進課長	関係人口における表現については、検討したい。
教育委員会事務局長	P 3 2 の部活動に関する現状と課題の文章は、中学校を念頭に記載している。高校については、明確に地域に移行するとは言われていない。また、高校の部活動は、それを目指して学校を選択する人もいる。対応できるようレベルの高い指導を受けることができる環境を整えていくことも必要である。高校の部活動の地域移行についても勘案しながら検討を進めたいと考えるが、計画の文章はそのままとしたい。
財務管理部部長	P 6 1 の主要施策 3－3－1 の（２）について、防災士の育成と地域との連携のほか、地域における住民同士のつながりも含めた幅広い連携について記載しているものであり、この記載のとおり併記したい。（３）の地区防災計画については、地域振興会を単位として策定することを想定している。計画の策定を働きかけていくが、策定するだけでなく、日頃から推進していくことで地域の防災力が向上するものと考えており、「推進」という言葉を入れている。
消防長	3－3－2 の現状と課題の記載について、一旦災害が発生すると、やはりマンパワーが必要であり、現段階では定数の確保に向けて、加入促進を進めていきたい。
委員 C	P 6 0 の現状と課題の中に「自助・共助・公助」とある。過去の大規模災害では、自助・共助で 7 割以上の人命が助かっており、特に自助である自分自身の防災意識が大事である。防災のキーワードとして「自分の命は自分で守る」がある。この文言を付け加えていただきたい。
財務管理部部長	ご提案のとおり、「自分の命は自分で守ることを基本とし」という文言を追加する形で検討する。
委員 D	「施策の成果」の記載内容について、例えば P 5 7 の「利便性の高い公共交通網が整備されています」は、成果ではなく活動指標ではないか。成果としては「整備によって利便性の高い移動環境が享受されている」というような書きぶりになると思う。また、P 6 3 の「市民一人ひとりが安全に対する高い意識を持っています」について、市民に高い意識を持ってもらうことがゴールではなく、安心して住めることが成果目標ではないか。P 6 9 の「それぞれの事情に合わせた支援が行われています」についても、支援を行うことは活動目標であり、それによって幸せな環境になることが成果目標になるのではないか。
会長	具体的な修正については会長預かりとさせていただきたい。
委員 E	P 9 4、9 5 の行財政運営に関連する言葉として、E B P M、エビデンスに基づく政策立案という言葉がある。文言として記載するかどうかは別として、行政運営、マネジメントの推進の中にこうした E B P M の視点が必要ではないか。
企画管理部部長	エビデンスに基づき、根拠を持って政策を立案することは大変重要であり、実施計画ではその視点をもって成果指標の設定を検討していきたい。
委員 F	P 1 0 3 の人口動態に関する記載のタイトルに「社会動態は転入超過」とあるが、直近の状況は転入超過ではない。また、説明文章に「新型コロナウイルス感染症の感染拡大により移動が制限されたことによるものと考えられる」とあるが、根拠はあるのか。また P 1 0 6 の医療従事者の推移のグラフにおいて、凡例の順序を折れ線の順序に合わせたほうがわかりやすい。
事務局	人口動態のタイトルについては、転入超過傾向にあったため、このような記載としていたが、直近の数値をみると転出超過であり、表現について検討したい。新型コロナウイルス感染症の影響に関する記載については、入国制限によって外国人労働者の転入が著しく減少しているという直接的な影響が明確にあるため、その説明文を載せるなどわかりやすく記載したい。

副市長	3月から9月の間には、入国制限の緩和により外国人が増えている。この6か月間で300人くらい増えており、今後も増加するものと思われる。
会長	労働力人口の奪い合いは世界中で行われている。円安傾向が続き、日本の賃金が安くなるとなかなか外国人が来てくれないということもあり、楽観視はできない。凡例については修正をお願いしたい。 いただいた意見を踏まえ、修正は会長・副会長に一任いただき、答申案を確認させていただきたい。 (異議なし) それでは、会長・副会長において資料を確認し、市長に答申させていただく。

4 その他

会長	今後の開催日程について、事務局から説明いただきたい。
事務局	いただいたご指摘を反映し、11月中旬に答申を実施したい。その後、市議会12月定例会に議案を提出する予定である。また、現在、令和5年度当初予算と併せて各担当課で実施計画の内容を検討しており、5月ごろに実施計画案を説明する機会を設けたい。
副会長	昨年度から審議いただきお礼申し上げる。出来上がった素案は、ライフステージに沿った形というユニークな射水市独自のスタイルとなった。ムズムズという射水市民が慣れ親しんだ言葉も入っており、市民にとって近く感じられるものになったと思う。関係人口の取扱いが難しいところもあるが、将来のことも含め、様々な考えが盛り込まれたと思う。成果指標では数値を掲載せず、成果の形を見せており、実施計画は成果に沿った具体的で効果的な計画になると思っている。部会での熱心な議論にも感謝している。私自身にとっても貴重な体験となった。射水市の発展が楽しみである。
会長	基本構想・基本計画をライフステージに合わせていくというのはユニークで興味深かった。というのは、SDGsの考え方のひとつに「自分ごととする」というのがある。市民が総合計画を目にすることは少ないが、何かの機会に見てもらえたときに、自分に関わる場所に注目してもらえる、考えてもらえる計画になったと思う。 また、市としては成果指標を掲載しないことに踏み切ることが難しかったと思うが、審議会の意見を取り入れ、現在の形になったことは良かったと感じている。社会情勢の変化の中で成果指標の達成により評価されるのではなく、社会情勢が変化しても理念の中で問題を捉え、考えていくことができる。多様な視点からユニークな意見が多く出て、なかなかまとまらない面もあったが、それらを可能な限り取りまとめ、吸収して面白い総合計画になった。 ここまでたどり着いたことに感謝している。
副市長	熱心な議論に感謝申し上げます。昨年12月15日に市長から諮問し、総合計画の策定がスタートした。議論の中で委員の方々から、市民に寄り添った計画、ウェルビーイングの考えを取り込んだ計画、といった声が大きくなり、ライフステージを軸においた体系にモデルチェンジした。これは射水色の強い独特の総合計画であろうと思う。今日に至ったことに感謝申し上げます。今後、実施計画の策定にあたり、行政側が汗をかき、知恵を出す場面が多くなるが、ご指導賜ればありがたい。

5 閉会

以上